

厚生労働大臣  
外 添 要 一 殿

学校法人 金沢医科大学  
理事長 山下 公

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記のことに付いて、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	51	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法 → 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績 → 別紙参照(様式第13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	282 人	4.7 人	286.7 人	看護業務補助者	118 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	6 人	0 人	6 人	理 学 療 法 士	17 人	臨床検査 衛生検査	臨床検査技師 55 人
薬 剤 師	35 人	0 人	35 人	作 業 療 法 士	7 人		衛生検査技師 0 人
保 健 師	2 人	0 人	2 人	視 能 訓 練 士	4 人	そ の 他	0 人
助 産 師	12 人	0 人	12 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	558 人	18.7 人	576.7 人	臨 床 工 学 技 師	10 人	医療社会事業従事者	4 人
准 看 護 師	9 人	4.2 人	13.2 人	栄 養 士	4 人	その他の技術員	15 人
歯科衛生士	7 人	0 人	7 人	歯 科 技 工 士	3 人	事 務 職 員	92 人
管理栄養士	13 人	0 人	13 人	診 療 放 射 線 技 師	31 人	そ の 他 の 職 員	63 人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	677.7 人	4.1 人	681.8 人
1日当たり平均外来患者数	1,096.8 人	51.8 人	1,148.6 人
1日当たり平均調剤数	1,177.5 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
インプラント義歯	<input checked="" type="radio"/> 有・無	5人
顎顔面補綴	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血管腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	人
重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	人
31燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・ <input type="radio"/> 無	人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・ <input type="radio"/> 無	人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨移動術による関節温存型再建	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性難聴の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
カフェイン併用化学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有 ・ <input type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有 ・ <input type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性化型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有 ・ <input type="radio"/> 無	人

- (注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。  
2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

(参考:3月31日までの先進医療届出分)

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
顎関節脱臼内視鏡下手術	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	1 人
実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無	0 人

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	33人	・モヤモヤ病（ウイリス動脈輪閉塞症）	9人
・多発性硬化症	39人	・ウェグナー肉芽腫症	2人
・重症筋無力症	30人	・特発性拡張型（うっ血型）心筋症	10人
・全身性エリテマトーデス	97人	・多系統萎縮症	28人
・スモン	0人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	2人
・再生不良性貧血	13人	・膿疱性乾癬	2人
・サルコイドーシス	31人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・原発性胆汁性肝硬変	24人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	57人	・重症急性膵炎	1人
・特発性血小板減少性紫斑病	21人	・特発性大腿骨頭壊死症	56人
・結節性動脈周囲炎	10人	・混合性結合組織病	10人
・潰瘍性大腸炎	52人	・原発性免疫不全症候群	1人
・大動脈炎症候群	19人	・特発性間質性肺炎	2人
・ピュルガー病	15人	・網膜色素変性症	25人
・天疱瘡	3人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	33人	・原発性肺高血圧症	1人
・クローン病	28人	・神経繊維腫症	6人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	14人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	85人	・特発性慢性肺血栓栓症（肺高血圧型）	4人
・アミロイドーシス	3人	・ライソゾーム病（ファブリー[Fabry]病含む）	0人
・後縦靭帯骨化症	71人	・副腎白質ジストロフィー	2人
・ハンチントン病	1人		

（注） 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部署にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に6回程度 (臨床-病理部門：5回 臨床-検査部門：1回)	
剖検の状況	剖検症例数 70例	剖検率 20.1%

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
携帯電話システムの医学教育への応用	黒田 尚宏	医学教育学	500	補助 文部科学省
医学教育における情報ネットワークを利用した学外臨床教育支援システムの開発	堀 有行	医学教育学	5,600	補助 文部科学省
母体血中有核赤血球のハイスループット分離精製方法の検証	高林 晴夫	人類遺伝学研究部門臨床	1,200	委託 (独)科学技術振興機構
疑ウエルナー症候群の病態解明	石垣 靖人	R Iセンター	800	補助 文部科学省
DNAマイクロアレイにおける外部標準データベース構築	石垣 靖人	R Iセンター	2,000	委託 (独)科学技術振興機構
炎症性大腸発がんモデルマウスを用いた共役リノ酸の発がん阻止効果に関する研究	安井 由美子	腫瘍病理学	1,370	補助 文部科学省
抗心筋膜受容体抗体による心筋傷害: 抗体吸着療法の開発と創薬の試み	松井 忍	先進医療研究部門	2,100	補助 文部科学省
白血病の新規治療標的—プロテオミクス技術による hepcidin-25 と骨髄因子の解析—	友杉 直久	先進医療研究部門	1,000	補助 (財)北国がん研究振興財団
流行するフラビウイルスの急所は何か: NS4a蛋白及びゲノム3' UTRの役割	竹上 勉	分子腫瘍学研究部門	1,600	補助 文部科学省
白内障患者に対する透明遮光眼鏡の視機能改善効果の解明	坂本 保夫	環境原性視覚病態研究部門	1,000	補助 文部科学省
ミ波による眼球への影響評価に関する研究	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究部門	30,800	委託 (財)テレコム先端技術研究支援センター(総務省)
培養骨格筋細胞を用いた筋再生に関する研究	下川 隆	分子細胞形態科学(解剖学)	1,400	補助 文部科学省
舌解毒酵素陽性病変のメタ化異常と舌前がん病変としての意義に関する研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	800	補助 文部科学省
核内受容体蛋白を分子標的とした肝癌化学予防に関する研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	1,000	補助 文部科学省
個体レベルでの発がん予知と予防に関する基盤的研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	2,450	補助 厚生労働省
がん化学予防剤の開発に関する基礎及び臨床研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	3,500	補助 厚生労働省
疾患モデル動物を用いた環境発がんの初期発生過程及び感受性要因の解明とその臨床応用に関する研究	杉江 茂幸	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	3,800	補助 厚生労働省
食品中の複数の化学物質による健康影響に関する調査研究	田中 卓二	腫瘍病理学(病理学Ⅰ)	4,500	補助 厚生労働省
肺癌進展におけるHMGA2遺伝子の発現誘導機構と活性化パズルの網羅的解析	上田 善道	病理病態学(病理学Ⅱ)	2,100	補助 文部科学省
胃癌再発抑制の新しい戦略—治癒手術後潜在再発に対する抗癌剤効果予測—	小坂 健夫	消化器外科治療学(消化器外科学)	1,000	補助 文部科学省
腹腔鏡下手術用屈曲軸内回転鉗子の開発	表 和彦	消化器外科治療学(消化器外科学)	400	委託 (独)科学技術振興機構
特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	松本 忠美	運動機能病態学(整形外科)	800	補助 厚生労働省
手術用ナビゲーションシステムを用いた術者の技能評価と手術教育プログラム	友田 幸一	感覚機能病態学(耳鼻咽喉科学)	3,200	補助 文部科学省
紫外線反射防止サングラスの開発とその効果の実証	小島 正美	感覚機能病態学(眼科学)	2,000	委託 (独)科学技術振興機構

小計 24件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
変形性顎関節症の発症機序と病態の解明：破骨細胞に対する性ホルモンの影響	金山 景錫	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,300	補助 文部科学省
顎関節症の病因解明の試み；滑液中の蛋白修飾糖類の解析による糖鎖異常の検討	出村 昇	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,600	補助 文部科学省
高齢者の習慣性顎関節脱臼の臨床病態学的調査と低侵襲手術法の確立に向けた開発	瀬上 夏樹	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,700	補助 文部科学省
うま味感受性(おいしさ)を増大させる雰囲気づくりに関する脳科学的研究	吉村 弘	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,000	補助 日本うま味調味料協会技術部会
カフェインと仮想空間刺激による認知症・アルツハイマー病の治療法の開発	吉村 弘	顎口腔機能病態学(口腔科学)	1,000	補助 (財)慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団
画像診断に基づく消化器がん、肺がん、乳がんのclinical stagingの確立と治療法選択に関する研究	東 光太郎	放射線診断治療学(放射線医学)	1,000	補助 厚生労働省
リンパ管系良性・悪性腫瘍の発病進展に関与する脈管新生因子及び遺伝子変異	森田 礼時	機能再建外科学(形成外科学)	1,600	補助 文部科学省
塩酸ゲムシレンによる膵がん細胞のEMT誘導の検証と分子細胞機構の解明	島崎 猛夫	腫瘍治療学	2,600	補助 文部科学省
がん化学療法に伴う疲労感に対する補中益気湯の有用性	元雄 良治	腫瘍治療学	1,000	補助 (財)がん集学的治療研究財団
姉妹染色体分体の分配を支配するPKU-β/TLK1の機能解析	伊達 孝保	ゲノム医科学(生化学)	2,000	補助 文部科学省
放射線誘発DNA損傷に対する、G1期特異的な新規修復経路の全容解明	岩淵 邦芳	ゲノム医科学(生化学)	1,600	補助 文部科学省
M期にDNA損傷を受けた細胞での新規損傷チェックポイントの研究:TLK1の役割	橋本 光正	ゲノム医科学(生化学)	1,900	補助 文部科学省
RNAレベルでの血管新生制御機構の解明と制癌への応用	米倉 秀人	ゲノム医科学(生化学)	1,000	補助 (財)北国がん研究振興財団
動脈硬化予防・治療薬創薬へ向けての平滑筋細胞内Ca <sup>2+</sup> と一酸化窒素の機能解明	西尾 眞友	生体情報薬理学(薬理学)	1,200	補助 文部科学省
循環ショックにおける肝臓の微小血管圧の測定法の確立	芝本 利重	生理機能制御学(生理学)	700	補助 文部科学省
運動トレーニングの循環ショックへの影響 -肝循環に注目して-	宮前 俊一	生理機能制御学(生理学)	900	補助 文部科学省
「おいしさ」を科学する：味覚-嗅覚相互関連の解明	須貝 外喜夫	生理機能制御学(生理学)	1,500	補助 文部科学省
細胞変形に伴う肺胞上皮損傷とToll-like Receptorsの役割	梅 博久	呼吸機能治療学(呼吸器内科学)	2,200	補助 文部科学省
肺胞水分蛋白再吸収機序の活性化による肺傷害治療法の開発	佐久間 勉	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,100	補助 文部科学省
仮想・極細気管支鏡とPET-CTを用いた肺野微小肺癌の悪性度解析と個別治療の確立	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	2,200	補助 文部科学省
微小早期肺癌および縦隔病変に対するVirtual Bronchoscopy ナビゲーション下の気管支鏡診断法の開発	薄田 勝男	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	500	補助 内視鏡医学研究振興財団
がん検診の適切な方法とその評価法の確立に関する研究	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	800	補助 厚生労働省
標準的検診法と精度管理や医療経済的効果に関する研究	佐川 元保	呼吸機能治療学(呼吸器外科)	1,000	補助 厚生労働省
神経疾患の診断・治療・予防に関する包括的臨床研究	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	550	委託 厚生労働省
免疫性神経疾患に関する調査研究	松井 真	脳脊髄神経治療学(神経内科学)	1,000	補助 厚生労働省

小計 25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
進行性腎疾患コホートにおける機能分子に関するプロテオーム解析	横山 仁	腎機能治療学(腎臓内科学)	1,500	補助 文部科学省
トロンビン受容体阻害による尿路結石症発生抑制	鈴木 孝治	泌尿生殖器治療学(泌尿器科学)	1,500	補助 文部科学省
メタリックシフト・ローム予防・改善のための生活習慣是正プログラムの作成とその評価—集学的ならびに個別化医療の展開	木越 俊和	内分泌代謝制御学(内分泌内科学)	2,000	補助 (財)福田記念医療技術振興財団
新規抗癌剤開発のためのリポソーム解析	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	1,600	補助 文部科学省
リポソーム制御による新たな免疫抑制剤の開発	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	8,200	補助 文部科学省
新規リウマチ関節炎抑制因子FRPのシグナル伝達と免疫システムに対する作用の解析	田中 真生	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	1,400	補助 文部科学省
自己免疫性リウマチ増殖性多臓器疾患—新しい疾患単位の可能性	正木 康史	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	700	補助 文部科学省
シェーグレン症候群の国際診断基準の作成	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	11,414	補助 アメリカ国立衛生研究所
スフィンゴ脂質を分子標的としたがん治療法の開発	梅原 久範	血液免疫制御学(血液免疫内科学)	7,000	補助 (財)車両競技公益資金記念財団
ヒト成人T細胞白血病ウイルス1型関連脊髄症(HAM)発症危険群の同定と発症予防法の開発	齊藤 峰輝	生体感染防御学(微生物学・医動物学)	2,000	補助 (財)武田科学振興財団
免疫性神経疾患に関する調査研究	大原 義朗	生体感染防御学(微生物学・医動物学)	1,000	補助 厚生労働省
日本人健康男性における飲酒と喫煙の血圧、腎機能に与える影響	山田 裕一	社会環境保健医学(衛生学)	1,200	補助 文部科学省
社会経済状態とabsenteeism・presenteeism	石崎 昌夫	社会環境保健医学(衛生学)	2,300	補助 文部科学省
各種循環器疾患危険因子の長期変化に関わる栄養学的要因	三浦 克之	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,300	補助 文部科学省
タイ王国汚染地域におけるカドミウム暴露と動脈硬化に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	4,500	補助 文部科学省
ダioxin胎内暴露の脳神経発達に及ぼす影響—大脳辺縁系を中心に—	西条 旨子	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,300	補助 文部科学省
GISを用いたベトナムでのダioxin類による環境汚染と健康影響に関する疫学研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,000	補助 文部科学省
ベトナムにおけるダioxin暴露による健康リスクモニタリング・システムの構築	西条 旨子	健康増進予防医学(公衆衛生学)	7,000	補助 三井物産株式会社三井物産環境基金
カドミウム汚染地域における生命予後等に関する疫学研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	4,600	委託 (株)東レリサーチセンター(環境省)
食生活・栄養素摂取状況が高齢者の健康寿命に与える影響に関する研究:NIPPON DATA80・90の追跡調査	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	500	補助 厚生労働省
特定疾患の疫学に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,000	補助 厚生労働省
疾病予防サービスに係わるエビデンス構築のための大規模コホート共同研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	5,000	補助 厚生労働省
勤労者の健康づくりのための給食を活用した集団及びハイリスク者への対策に関する研究	中川 秀昭	健康増進予防医学(公衆衛生学)	2,000	補助 厚生労働省
日本人の食事摂取基準の活用方法に関する検討	三浦 克之	健康増進予防医学(公衆衛生学)	1,500	補助 厚生労働省
卵巣機能におけるG-CSF、IL-6などサイトカインの作用解明と臨床応用について	牧野田 知	生殖周産期医学(産科婦人科学)	700	補助 文部科学省

小計 25件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託先
精神的ストレスの単球・マクロファージを介する急性冠症候群発症への関与	岩井 邦充	高齢医学(老年病学)	1,400	補助 文部科学省
遺伝子多型検索による高血圧個別化診療の確立に関する研究	森本 茂人	高齢医学(老年病学)	1,000	補助 厚生労働省
超音波装置を用いた超低出生体重児に対するカテーテルコイル塞栓術開発の研究	小林 あずさ	発生発達医学(小児科学)	900	補助 文部科学省
川崎病発症に自己免疫機序が関与している:モデルマウスを用いた分子相同仮説の検証	中村 常之	発生発達医学(小児科学)	2,100	補助 文部科学省
排便運動における骨盤神経叢直腸枝の働きに関する実験的研究	河野 美幸	臓器機能再建学(小児外科学)	1,700	補助 文部科学省
ドーパミンD2遺伝子多型と非定型抗精神病薬による治療予測	廣保 究	精神神経科学(神経精神医学)	1,000	補助 文部科学省
近赤外線酸素モニターによるCOMT多型と前頭葉機能の関連-ADHDでの比較-	地引 逸亀	精神神経科学(神経精神医学)	500	補助 文部科学省
非定型抗精神病薬オランザピンとアリピプラゾールの急性投与による家兎脳におけるドーパミン、セロトニン濃度の変化	川村 友美	精神神経科学(神経精神医学)	500	補助 (公)松原三郎記念事業松原記念奨励賞
マウス海馬錐体細胞における遅発性神経細胞死の分子機構の解明	日高 康治	侵襲制御学(麻酔学)	1,000	補助 文部科学省
正常および敗血症ラットの微小腸間膜動脈運動に及ぼす鎮静薬の影響	関 純彦	侵襲制御学(麻酔学)	500	補助 文部科学省
ウイルス感染症におけるスタチン系薬の宿主応答作用と抗ウイルス作用の解明	高橋 孝	総合内科学(総合診療科)	2,600	補助 文部科学省
心筋内アテロイド形成発現誘導による心筋再生治療	神田 享勉	総合内科学(総合診療科)	2,800	補助 文部科学省
Caspase-1により切断されたLyGDIによる転移抑制機構の解析	前田 雅代	生命科学科目(自然科学)	1,300	補助 文部科学省
経胎盤的母胎間シグナル伝達による胎児脳の発育調節	八田 稔久	分子細胞形態科学	10,000	補助 文部科学省
覚醒剤関連死の法医病理学的診断の精度向上を目指して:高温症及び血管障害	北村 修	法医学	2,300	補助 文部科学省
生体腎移植におけるドナーの経験	田村 幸子	看護学部	1,060	補助 文部科学省
甲状腺ホルモン欠乏による胎生期脳障害の病態解明に関する研究	柿沼 宏明	看護学部	1,200	補助 文部科学省
炎症性大腸発がんにおける一酸化窒素のジェネティック作用とエピジェネティック作用	甲野 裕之	看護学部	2,000	補助 文部科学省
産業領域におけるバーンアウトと企業損失に関する縦断研究	北岡 和代	看護学部	800	補助 文部科学省
「訪問看護師を対象とした感染管理教育プログラム」の実証と再構築に関する研究	前田 修子	看護学部	800	補助 文部科学省
夜勤交代勤務に対する適応過程の追跡研究-睡眠、疲労、バイオマーカーの1年間の追跡	森河 裕子	看護学部	3,300	補助 文部科学省
ヒガン発生に係わる環境要因及び感受性要因に関する研究	甲野 裕之	看護学部	1,700	補助 厚生労働省
OPLL(後縦靭帯骨化症)患者の在宅医療生活における主観的幸福感その要因分析	濱崎 優子	看護学部	550	補助 (財)フランスベクト・メディカルホーム

小計 23件

総計 97件

## 2 論文発表等の実績

雑誌名(発行年月)	題名	発表者名(著者名)	所属部門
Circulation Journal (2007.4)	Impact of Cutting Balloon Angioplasty(CBA)prior to Bare Metal Stenting on Restenosis	北山道彦	循環器内科
Vascular Medicine (2007.4)	スタチンのpharmacogenomics	赤尾浩慶	循環器内科
動脈硬化予防 (2007.4)	CETPとコレステロール逆転送	梶波康二	循環器内科
Journal of Cardiology(2007.4)	Role of a Novel Conduction Pattern Around the Coronary Sinus in Cavotricuspid Isthmus Dependent Right Atrial Flutter	津川博一	循環器内科
Medical Practice (2007.7)	LDLアフェレーシスの適応と有効性	本山敦士	循環器内科
Circulation Journal (2007.12)	Successful Catheter Ablation of Left Ventricular Epicardial Tachycardia Originating From the Great Cardiac Vein	紘野健一	循環器内科
Journal of Nuclear Cardiology (2007.5)	Comparison of gated N-13 ammonia PET and gated Tc-99m sestamibi SPECT for quantitative analysis of global and regional left ventricular function	梶波康二	循環器内科
European Heart Journal (2007.12)	Serum deoxyribonuclease I activity can be used as a novel marker of transient myocardial ischaemia:results in vasospastic angina pectoris induced by provocation test	河合康幸	循環器内科
Pacing Clinical Electrophysiology (2007.12)	Ablation of Idiopathic Ventricular Tachycardia in Two Separate Regions of Outflow	紘野健一	循環器内科
循環器専門医 (2008.1)	スタチン療法のファーマコゲノミクス	梶波康二	循環器内科
Cancer Immunol.Immunther (2007.5)	Melanocyte differentiation antigen RAB38/NY-MEL-1 induces frequent antibody responses exclusively in melanoma patients.	K.Osanai	呼吸器内科学
Journal of Magnetic Resonance Imaging (2007.5)	Lactate, Choline, and creatine levels measured by vitro 1H-MRS as prognostic parameters in patients with non-small-cell lung cancer	H. Yokota	放射線科
American Journal of Gastroenterology (2007.9)	Usefulness of a combined evaluation of the serum adiponectin level, HOMA-IR, and serum type IV collagen 7S level to predict the early stage of nonalcoholic steatohepatitis.	Masahiko Shimada	消化器内科
アルコールと医学生物学(2007.9)	慢性アルコール飼育ラットに及ぼすIL-6誘導物質(ME3738)経口投与の検討	土島 睦	消化器内科
酸化ストレスと肝疾患 (2007.10)	肝細胞癌を発生したNASHモデルマウス肝の酸化ストレスと抗酸化酵素の発現	川原 弘	消化器内科
金沢医科大学雑誌 (2007.10)	ミトコンドリア機能抑制下での初代培養ラット肝細胞に及ぼすエタノール負荷の影響	福山 智基	消化器内科
金沢医科大学雑誌 (2007.10)	脂肪肝ラットを用いた非アルコール性脂肪肝炎モデルの作製と肝でのアディポネクチンの発現について	齊藤 隆	消化器内科
金沢医科大学雑誌 (2007.10)	四塩化炭素投与ラット肝に及ぼすinterleukin-6誘導物質ME3738の抗肝線維化効果	柳田 康博	消化器内科
Diabetes (2007. 6)	Reduction in microalbuminuria as an integrated indicator for renal and cardiovascular risk reduction in patients with type 2 diabetes.	古家 大祐	内分泌・代謝科
Diabetes Care (2007. 6)	Reduction of microalbuminuria in patients with type 2 diabetes: the Shiga Microalbuminuria Reduction Trial (SMART).	古家 大祐	内分泌・代謝科
日本内分泌学会雑誌	原発性副甲状腺機能亢進症を合併し多発性内分泌腫瘍1型と考えられたTSH産生下垂体腺腫の1例	上原 啓吾	内分泌・代謝科
Clin.Exp. Immunol (2007.7)	Clonality analysis of lymphoproliferative disorders in lymphocytes infiltration from patients with Sjögren's syndrome (SS)	Y.Masaki	血液免疫制御学
日本内科学会雑誌 (2007.10)	Systemic Sclerosis (SSc).	梅原久範	血液免疫制御学
Jpn. J. Clin. Immunol.	リウマチ膠原病診療における抗環状シトルリン化ペプチド抗体(抗CCP抗体)の臨床的有用性の検討.	梅原久範	血液免疫制御学
Cardiovascular Drugs and Therapy (2007.6)	Oral Administration of Candesartan Improves the Survival of Mice with Viral Myocarditis through Modification of Cardiac Adiponectin	S.Morimoto	高齢医学科
FEMS Immunol Med Microbiol (2007.4)	Vasculitis induced by immunization with Bacillus Calmette-Guerin followed by atypical mycobacterium antigen: a new mouse model for	中村 常之	小児科学
小児科臨床 (2007.5)	集中治療を必要とする新生児疾患に対するヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド(hANP)製剤の有用性	小林 あずさ	小児科学
小児科臨床 (2007.6)	小児溺水における一次救命処置の重要性—小児溺水37症例の検討	松江 悠紀子	小児科学
臨床検査 (2007.8)	小児臨床分離Streptococcus pneumoniae株のP B P s 遺伝子解析と薬剤感受性の比較検討	山村 淳一	小児科学

雑誌名 (発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
北陸公衛誌 (2007.10)	保護者のとらえる石川県における小児救急医療の現状と要望—保護者へのアンケート調査による地区別比較—	柿沼 宏明	小児科学
日本小児救急医学会雑誌(2007.11)	石川県における小児救急医療の現状:患者家族へのアンケート調査から	平松 正行	小児科学
Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet (2007.12)	Variation in GABA <sub>A</sub> subunit gene copy number in an autistic patient with mosaic 4 p duplication (p12p16)	柿沼 宏明	小児科学
小児科臨床 (2008.1)	当院での新生児領域における新たな循環器系薬剤の使用法	中村 常之	小児科学
最新精神医 (2007.12)	精神科医療(大学病院)での音楽療法の活用	北本 福美	精神科神経科
臨床精神医学 (2007.4)	恋愛妄想(クレランボー症候群)の消失後うつ病が交代性に出現した1症例	紋川 明和	精神科神経科
新薬と臨床 (2007.5)	水中毒に続発した悪性症候群の回復後、統合失調症の維持療法に aripiprazoleを使用した1例	大原 聖子	精神科神経科
Schizophrenia Front (2007.8)	入退院を繰り返すうちに能力低下を認めた持続性身体表現性疼痛障害の一例	川村 友美	精神科神経科
NEUROLOGY ASIA (2007.12)	Expression of voltage-gated potassium ion channel gene KCNQ3 in mouse thymus	廣保 究	精神科神経科
Innervision (2007.7)	FunctionalMRIによるてんかん患者の記憶機能の優位半球側方性に関する研究	地引 逸亀	精神科神経科
Radiology (2007.5)	Lung Carcinoma : diffusion-weighted MR imaging-preliminary evaluation with apparent diffusion coefficient.	M.Matoba	放射線科
Movement disorders (2007.5)	Neurological deficits are associated with increased brain calcinosis, hypoperfusion, and hypometabolism in idiopathic basal ganglia	K. Higashi	放射線科
日本外科感染症学会雑誌 (2007.5)	下部消化管穿孔に起因したSIRS症例に対するPMX-DHPの有用性と限界	斎藤人志	消化器外科
外科治療 (2007.4)	胃・十二指腸の腫瘍性疾患 胃平滑肉腫・肉腫 主にGISTについて	高島茂樹	消化器外科
骨折 (2007.9)	S2nailを用いた当科におけるX線透視時間短縮方法の工夫—Oblique methodを用いて—	横山光輝	整形外科
Hip Joint (2007.10)	関節裂隙2mm以下の進行期変形性股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術の長期成績	兼氏 歩	整形外科
整形災害外科 (2007.10)	Harris/Galante porous型セメントレス人工股関節置換術の長期成績	兼氏 歩	整形外科
関節外科 (2007.10)	骨切り術と人工股関節置換術の適応をどう考えるか	兼氏 歩	整形外科
脊椎脊髄神経手術手技 (2007.8)	ナビゲーション支援下最小侵襲TLIF (MIS-TLIF)の短期成績と傍脊柱筋への手術侵襲の検討	藤田拓也	整形外科
Clin Calcium (2007.5)	骨壊死発生と酸化ストレスの関連	松本忠美	整形外科
Hip Joint (2007.10)	同一機種におけるクロスリンクおよび非クロスリンクポリエチレン磨耗の比較	福井清数	整形外科
骨・関節・靭帯 (2007.6)	Tubular retractorを用いた小皮切頭微鏡視下頸椎椎間板ヘルニア後方摘出術	藤田拓也	整形外科
Spine (2007.12)	Stage-specific sagittal spinopelvic alignment changes in osteoarthritis of the hip secondary to developmental hip dysplasia	T. Okuda	整形外科
骨折 (2007.5)	近位骨片が屈曲転位し術前整復不能な大腿骨転子部骨折の治療経験	前岡勇人	整形外科
整形外科 (2007.5)	専門医試験をめざす症例トレーニング 骨盤・股関節疾患	松本忠美	整形外科
整形災害外科 (2007.9)	セメントレス人工臼蓋設置における手技のポイント	松本忠美	整形外科
小児の脳神経 (2007.10)	Fully endoscopic expanded endonasal approach treating skull base lesions in pediatric patients.	赤井卓也	脳神経外科学
Surg Laparosc Endosc Percutan	Laparoscopic Repair of Late-presenting Bochdalek Hernia in 2 Infants	Miyuki Kohno	小児外科
小児外科 (2007.10)	鎖肛術後患児の長期フォローアップ—男児、中・高位鎖肛の問題点に着目して—	小沼 邦男	小児外科
Phys.Med.Biol. (2007.10)	Temperature elevation in the eye of anatomically based human head models for plane-wave exposures	M.Kojima	眼科
IEICE TRANS. COMMUN (2007.5)	The Measurements of the Complex Permittivities of Blood Samples in Quasi-Millimeter and Millimeter Wave Bands	M.Kojima	眼科
日眼 (2007.10)	感染性角膜炎診療ガイドライン	北川和子	眼科

雑誌名 (発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
臨床眼科 (2007.10)	続発性角膜アミロイドーシスの臨床像について	北川和子	眼科
あたらしい眼科 (2007.4)	角膜抵抗測定装置による角膜障害の定量化の検討	福田正道	眼科
臨床血液 (2007.11)	IgG4+AMOLPS(自己免疫性リンパ増殖性多臓器疾患)－新たな疾患概念の提唱	北川和子	眼科
Health Phys (2008.2)	Computation of temperature elevation in rabbit eye irradiated by 2.45-GHZ microwaves with different field configurations	K.Kojima	眼科
耳鼻咽喉科展望 (2007.10)	ESSにおける内視鏡特性と視野の比較検討－ナビゲーションシステムを用いた内視鏡視野角の客観的表示の試み－	友田幸一	耳鼻咽喉科
日本耳鼻咽喉科学会会報(2007.5)	耳鼻咽喉科におけるナビゲーション手術	友田幸一	耳鼻咽喉科
Japanese Journal of Infectious Diseases (2007.4)	Molecular epidemiology of Trichophyton tonsurans isolated in Japan using RFLP analysis of non-transcribed spacer regions of ribosomal RNA genes.	T.Mochizuki	皮膚科
Journal Kanazawa Medical University(2007.6)	Prostate cancer producing carcinoembryonic antigen and carbohydrate antigen 19-9 without expression of prostate-specific antigen	K.Miyazawa	泌尿器科
Urological Research (2007.12)	Reduction in oxalate-induced renal tubular epithelial cell injury by an extract from Quercus salicina Blume/Quercus stenophylla	M.T.Moriyama	泌尿器科
日本クリニカルパス学会誌 (2007.5)	前立腺生検におけるビデオを用いた患者説明	鈴木孝治	泌尿器科
Acta Obstet Gynecol Scand (2007.06)	Regulation of amphiregulin, EGFR-like factor expression by hCG in cultured human granulosa cells	Makinoda S	産科婦人科
Curr Med Chem (2008.03)	Granulocyte colony-stimulating factor (G-CSF) in the mechanism of human ovulation and its clinical usefulness	Makinoda S	産科婦人科
Hip Joint (2007.10)	人工股関節全置換術患者の術前・術後における股関節可動域の比較－片側群と両側群の比較－	中木哲也	リハビリテーションセン
Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids (2007.5)	L-NAME augments PAF-induced venoconstriction in isolated perfused livers of rat and guinea pig, but not mouse.	芝本利重	生理機能制御学
Journal of Pharmacological Sciences (2007.7)	NG-nitro-L-arginine methyl ester, but not methylene blue, attenuates anaphylactic hypotension in anesthetized mice.	芝本利重	生理機能制御学
Vascular Pharmacology	Effects of L-NAME on thromboxane A2-induced venoconstriction in isolated perfused livers from rat, guinea pig, and mouse.	芝本利重	生理機能制御学
European Journal of Pharmacology (2007.12)	Leukotrienes and cyclooxygenase products mediate anaphylactic venoconstriction in ovalbumin sensitized rat livers.	芝本利重	生理機能制御学
American Journal of Physiology. Regulatory, Integrative and Comparative	Involvement of splanchnic vascular bed in anaphylactic hypotension in anesthetized BALB/c mice.	芝本利重	生理機能制御学
The Journal of Physiological Sciences (2007.10)	Head-down tilt posture attenuates anaphylactic hypotension in mice and rats.	芝本利重	生理機能制御学
American Journal of Physiology. Regulatory, Integrative and Comparative	The roles of mast cells and Kupffer cells in rat systemic anaphylaxis.	芝本利重	生理機能制御学
Journal of Surgical Research (2007.5)	The sinusoidal pressure during ischemia-reperfusion injury in perfused mouse liver pretreated with or without L-NAME	芝本利重	生理機能制御学
Journal of Molecular and Cellular Cardiology (2007.11)	Inhibition of b-adrenergic signaling by intracellular AMP is independent of cell-surface adenosine receptors in rat cardiac cells.	倉田康孝	生理機能制御学
Biochem. Pharmacol. (2007.4)	G1 cell cycle arrest by amlodipine, a dihydropyridine Ca <sup>2+</sup> channel blocker, in human epidermoid carcinoma A431 cells	J. Yoshida,	生体情報薬理学
Ophthalmic Research (2007.10)	Expression of matrix metalloproteinases in wound healing after glaucoma filtration surgery in rabbits. Ophthalmic Res. 2007;39(6):315-24. Epub 2007 Oct 22.	Shogo Katsuda	病理病態学
Anticancer Research (2008.3-4)	Down-regulation of plakoglobin in soft tissue sarcoma is associated with a higher risk of pulmonary metastasis.	Yoshimichi Ueda	病理病態学

雑誌名 (発行年月)	題 名	発表者名 (著者名)	所属部門
Journal of Neurovirology (2007.6)	Abnormalities of spinal magnetic resonance images implicate clinical variability in human T-cell lymphotropic virus type I-associated myelopathy.	Mineki Saito	生体感染防御学
Journal of General Virology(2007.8)	Expression of L* protein of Theiler's murine encephalomyelitis virus in the chronic phase of infection.	Kunihiko Asakura	生体感染防御学
Jouanal of Infectious Diseases (2007.12)	Ex vivo analysis of human T lymphotropic virus type 1-specific CD4+ cells by use of a major histocompatibility complex class II tetramer composed of a neurological disease-susceptibility allele and its	Mineki Saito	生体感染防御学
Journal of Neuropathology and Experimental Neurology (2008.1)	Inclusion body myositis associated with human T-lymphotropic virus-type 1 infection: eleven patients from an endemic area in Japan.	Mineki Saito	生体感染防御学
Journal of Neurovirology (2008.3)	Significantly increased antibody response to heterogeneous nuclear ribonucleoproteins in cerebrospinal fluid of multiple sclerosis patients but not in patients with human T-lymphotropic virus type 1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	Mineki Saito	生体感染防御学
Journal of the Neurological Sciences(2008.3)	Increased frequency of CD4+T cells expressing fractalkine receptor CX3CR1 in patients with HTLV-1 associated myelopathy/tropical spastic paraparesis (HAM/TSP), but its AIDS susceptible polymorphisms are not associated with the disease.	Mineki Saito	生体感染防御学
eCAM (2008.3)	Phellinus linteus Extract Augments the Immune Response in Mitomycin C-Induced Immunodeficient Mice.	松葉慎太郎	代替基礎医学
Journal of Experimental Clinical Cancer Research (2007.9)	Predicting recurrence following curative surgery in stage I non-small cell lung cancer patients using an angiogenesis-associated factor.	湊 宏	病態診断医学
Internal Medicine (2007.9)	Primary pulmonary artery sarcoma detected with a pulmonary infarction.	湊 宏	病態診断医学
J Epidemiol (2007.5)	Dietary intake of fatty acids and serum C-reactive protein in Japanese	中川 秀昭	健康増進予防医学
Heart (2007.6)	Prognosis and prognostic factors in patients with hypertrophic cardiomyopathy in Japan: results from a nationwide study	中川 秀昭	健康増進予防医学
Eur. J. Epidemiol (2007.7)	The emerging risk factors collaboration: analysis of individual data on lipid, inflammatory and other markers in over 1.1 million participants in 104 prospective studies of cardiovascular diseases	中川 秀昭	健康増進予防医学
Toxicol. Lett (2007.8)	Effects of maternal exposure to 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on fetal brain growth and motor and behavioral development in	西条 旨子	健康増進予防医学部門
J of Chromatography B (2007. 8)	Noninvasive human metabolome analysis for differential diagnosis of inborn errors of metabolism	久原とみ子	人類遺伝学研究部門
Journal of Chromatography B (2007. 8)	Simple and quantitative analysis of urinary sulfated tauro- and glycodihydroxycholic acids in infant with cholestasis by electrospray ionization mass spectrometry	新家 敏弘	人類遺伝学研究部門
Journal of Chromatography B (2007. 8)	Changes in urinary level and configuration ratio of d-lactic acid in patients with short bowel syndrome	井上 義人	人類遺伝学研究部門
Biochemical and Biophysical Research Communications	Multiple shRNA expressions in a single plasmid vector improve RNAi against the XPA gene.	石垣 靖人	共同利用部門RIセンター
Hepatology Research (2007.11)	Clinicopathological significance of antinuclear antibodies in non-alcoholic steatohepatitis	湊 宏	病院病理部

小計 18件

計 104件

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長	飯塚秀明
管理担当者氏名	病院長室長	古居滋

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		管理課 薬剤部 看護部 中央放射線部 医療情報部 医事課	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号（7桁）を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	職員課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	職員課	
	閲覧実績	管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	管理課 薬剤部	
体制確保の状況 規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染対策室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染対策室
		従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染対策室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染対策室
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業員に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	ME部
		従業員に対する医療機器の安全使用のための研修の状況	ME部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	(診療録関係) 医療情報部長	堀 有 行
	(管理・運営関係) 病院長 室長	古 居 滋
閲覧担当者氏名	(診療録関係) 医療情報課長	山 下 和 夫
	(管理・運営関係) 管理課長	上 端 雅 則
閲覧の求めに応じる場所	カルテ閲覧室 ・ 管理課事務室	

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.8%	算定期間	平成19年 4月 1日 ~ 平成20年 3月31日
算 出 根 拠	A: 紹介患者の数		8,885 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,413 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,645 人
	D: 初診の患者の数		26,181 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有(4名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(1名)・無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専任（４）名 兼任（８）名</p> <p>・活動のおもな内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会及び事故調査委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全対策委員会の庶務に関すること。</li> <li>・医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。</li> <li>・医療安全に係る連絡調整に関すること。</li> <li>・診療情報提供に関すること。</li> <li>・医療安全相談に関すること。</li> <li>・その他医療安全対策の推進に関すること。（病院全職員を対象とするもの、特定の部署の職員を対象とするもの等の職員研修の計画・立案・実施等）</li> <li>・兼任リスクマネージャ（平成 19 年 4 月、臨床検査技師 1 名、放射線技師 1 名、薬剤師 1 名、看護師 3 名を発令）は専従リスクマネージャを補佐し、医療事故・インシデント防止のため医療安全の推進と問題解決のため検討会を毎週実施する。</li> </ul>	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	有・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・指針の主な内容</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は、医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの 3 部構成をとっている。</p> <p>指針では、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p> <p>安全管理体制に関する関係規程では、リスクマネジメント規程、医療事故調査委員会規程、医療安全対策委員会規程、医療安全対策小委員会運営要領、医療安全対策部組織運営内規、診療情報提供に関する規程、患者相談業務に関する事務取扱要領を収載している。それぞれの規程には規程制定の趣旨・目的、委員の構成、審議事項等を定めている。</p>	

医療事故防止に関する共通マニュアルは、患者誤認防止、伝達エラー、転倒・転落防止について、身体抑制、小児静脈注射の固定手順、毒薬・ハイリスク薬の管理、抗がん剤治療のプロトコル、薬の自己管理、褥瘡対策マニュアル、総機器管理、電子カルテの利用等24項目について記載し、共通の事故防止マニュアルとしている。

一方、部門マニュアルでは、薬剤部、内視鏡センター、救急医療センター、中央手術部、血液センター、中央臨床検査部、栄養部、看護部等、12部署の安全対策マニュアルを収載している。

薬剤部のマニュアルは、病棟・外来部門薬品安全管理マニュアル、麻薬院内取り扱いマニュアル、向精神薬取り扱い要領等の構成となっている。中央手術部では、ガーゼカウントマニュアル、機器・針カウントマニュアル、検体取り扱いフローチャート、麻薬の確認等の構成となっている。血液センターでは、輸血医療安全対策マニュアル、輸血取扱手順、輸血療法実施に対する安全対策チェック項目の構成となっている。中央臨床検査部のマニュアルは、採血マニュアル対応手順、生理機能検査室での患者急変時対応手順の構成となっている。看護部のマニュアルは、注射、輸血、輸液、与薬、酸素吸入、チューブ類、検査等の構成で、それぞれの項目・手技について、実践的な手順や注意事項を詳細に記載したものとなっている。その他内視鏡センター、救急医療センター、中央滅菌材料部、リハビリテーションセンター、栄養部、看護部、臨床研修センターそれぞれの部署における基本的注意事項をマニュアル化して収載した。

⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

年 24 回

活動の主な内容

- \*医療安全対策小委員会：医療安全対策委員長宛提出されたインシデントレポートを、重要な事例については医療安全管理者が事実確認等の詳細な調査を行うと共に分析・検討し、委員会に検討事例として提出する。提出された事例はインシデントに至る状況、要因、影響、改善について小委員会として徹底的に分析・検討し、医療事故防止対策の小委員会案を医療安全対策委員会に提案する。
- \*医療安全対策委員会：小委員会からのインシデント事例の分析・検討結果の報告・発表の場であり、各部門リスクマネージャである医療安全対策委員に医療事故防止策として周知するとともに、各部門所属者の情報の共有化と、事故防止の認識を深めてもらうよう周知徹底を要請する。また、防止策を委員会として実施する場合や、病院として組織的に改善策を実行する場合には、関係部署に改善の要望を出す。さらに、インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び各部門に共通するような代表事例等の資料を作成し併せて周知している。周知方法として、電子カルテ上に委員会の議事録を閲覧できるようにすると共に、印刷した資料・議事録を各委員及び全リスクマネージャに配付し、所属職員全員が読むようにし、読んだ者はサインするようにした。
- \*医療安全対策委員会決定の改善策及び事故防止策の実現：委員会で決定した改善策等については、電子カルテシステムの改善であれば担当部署に改善を依頼し、また、委員会として対応すべきものについては調査のうえ、改善策及び防止策を作成し、それを周知徹底する。
- \*医療安全対策委員会から、各部署へインシデント分析等その部署における医療安全管理についての検討を要請し、その部署特有の問題或いは既の実施している安全管理上有効な取り決めについて、医療安全対策委員会で報告させ、全体として情報を共有する。このインシデント分析は医師・看護師・薬剤師等関係者が同一のテーマで話し合うことにより、チ

ーム医療としてのコミュニケーションをより密接なものとする有効な機会となっている。

\*医療安全院内ラウンドの実施：平成18年2月から医療安全院内ラウンドを実施。平成19年度から毎月1回、1回に2箇所を対象として実施する。実施に際しては、医療安全管理者が中心となり、医師、看護師、医療技術者、事務職員の各部門リスクマネージャが毎回交代でラウンドを実施し、改善事項があればそれを通知した後、次の院内ラウンドで改善状態を検証する。

\*医療安全対策委員会として各科・各部署の医療安全に対する職員の認識等の実態を把握するため、必要に応じアンケート調査を実施して、分析・検討した結果を委員会で公表し改善策等の指導や今後の医療安全対策の進め方を検討している。

\*病院部科長会及び病院連絡会など院内で定期的に行われている各種会議でも、インシデント情報の収集と分析結果の資料配付と報告がなされ、医療事故再発防止策の一環として情報を共有するとともに、各部門内での周知・徹底に努めている。

\*委員会の開催日及び協議事項は別紙のとおり。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年17回

#### ・研修の主な内容

##### 第1回 安全管理体制確保のための職員研修会

日時：平成19年7月25日

テーマ：いま、院内で求められる医療安全対策

講師：橋本 智昭

(株)スズケン カスタマーサポート部 コンサルティング課長

出席者：医療安全対策委員会委員（部門リスクマネージャ）、看護リスクマネージャ、医師、看護師、医療技術者、事務職員、他病院者等 約1,150名

研修内容：厚生労働省の医療安全施策として、医療機関における安全体制確保の法的義務の強化の医療行政の流れから始まり、事故に伴う法的責任、診療科別医療訴訟の推移、事故事例等の紹介があった。更に、医療事故については犯人探しではなく原因探しが重要であり、事故防止対策は、誤りにくいシステム、誤っても事故に繋がらないシステム、間違いが起こってもゆっくり現れるシステムの構築が重要である。個人のエラー防止としては準備時の対策、実施時の対策があるとの説明がなされ、最後は個人個人のリスク感性を上げる努力が必要であるとの講演であった。

##### 第2回 安全管理体制確保のための職員研修会

日時：平成20年1月29日

テーマ：1. 当院における医療安全対策 —医療安全対策小委員会が目指すもの—

講師：中川 淳（金沢医科大学病院 医療安全対策小委員会 委員長）

出席者：医療安全対策委員会委員（部門リスクマネージャ）、看護リスクマネージャ、医師、看護師、医療技術者、事務職員、他病院者等 約1,080名

研修内容：当院における医療安全管理体制の概略説明に始まり、その中での医療安全対策小委員会の役割と位置づけの説明、医療事故防止に関する医療安全管理体制の指針の重要部分の説明があり、長年小委員会でインシデント事例の分析を行い、改善策を提案してきた代表事例の紹介であったり、提言の具体例が紹介された。更に、医療安全小委員会的活動の広まりにより、互いに提言や注意喚起を行うことで改善がなされた事例が報告されるとともに、今後の課題も示された。

## 院内感染防止のための教育講演会

日 時：平成20年3月13日

テーマ：院内感染に関する変化する判例からの教訓

講 師：三輪 亮寿 弁護士（三輪 亮寿法律事務所）

出席者：医師、看護師、医療技術者、事務職員、等 約 400名

研修内容：感染症に関する医療裁判の判例を中心に、裁判の現状と過失判断の相違（医師と裁判所の見解）について説明がなされ、特にMRSA患者に対してバンコマイシンに切り替える事例では、従来医療行為がベストであれば結果が悪くても過失はないとされていたが、不確実要素（非感染性疾患、尿路疾患、抗菌薬の不適切使用、患者の防御能力の低下等）が多い場合は、結果が悪ければ過失ありとして訴訟・裁判になる場合があるので注意が必要である。今後の対応は、医師は悪い結果を想定したインフォームドコンセントが必要であり、悪い結果の予兆の早期発見や、予見義務を確実に行う事が大切であるとの講演であった。

当日はイントラネットのライブ中継を実施するとともに、当日参加できなかった職員のために、イントラネットを利用したライブ中継を配信した。また、安全管理体制確保のための職員研修会については、録画ビデオを上映するビデオ研修会を各2回にわたり実施し、さらに録画ビデオの貸し出しも行い、ビデオで研修を行う事で出来るだけ多くの職員が研修を受けられるようにしている。

## 褥瘡対策講習会

日 時：平成19年11月16日

テーマ：最近の褥瘡医療と局所医療の進歩

講 師：森口 隆彦（川崎医科大学 形成外科 教授、日本褥瘡学会理事長）

出席者：医師、看護師、医療技術者、事務、 112名

研修内容：診療報酬上の褥瘡ハイリスク加算制度は、褥瘡発症のハイリスク、もしくは有する患者に総合的な予防・管理を行えば診療報酬上の加算が認められるものであるとの概要についての説明と、日本褥瘡学会の取り組みを紹介されその経緯や目的、今後の展望について解説された。

## 新入職員オリエンテーション

日 時：平成19年4月2日・3日

講 師：松本 忠美（副院長）

出席者：研修医、看護師、看護補助、医療技術者、 102名

研修内容：病院職員として熟知していなければならない病院の理念、病院全体の概要を始めてとして、医療安全管理体制の指針・関係規程の基本的事項、及び院内防災設備について。また、過去の講演を収録したビデオを上映し、医療安全の重要性を認識してもらうよう安全管理に対する教育・研修を行った。

## 輸液ポンプ・シリンジポンプトレーニング

開催日 平成19年5月9日

テーマ 輸液ポンプ・シリンジポンプについて

講 師 教育担当看護師、機器納入業者

対象者 新人看護師、研修医 参加人数 84名

内 容 輸液ポンプ・シリンジポンプの基礎知識から特徴・操作手順、トラブル時の対応方法。

### 新人看護師研修会

開催日 平成19年5月24・25日  
テーマ 1. 転倒・転落防止シミュレーション 2. 危険予知トレーニングについて  
講師 前多 一美 (医療安全管理者)、看護師長 (看護部安全管理委員)  
対象者 新人看護師、理学療法士、作業療法士、看護補助員 参加人数 70名  
内容 患者の身体的機能障害、認知的機能障害等のアセスメントの実施、患者のケアプランを立案、転倒・転落発生時の対応等についてグループ分かれてのトレーニング。

### 静脈注射・採血トレーニング

開催日 平成19年6月6・7日  
テーマ 輸液ポンプ・シリンジポンプについて  
講師 教育担当看護師、機器納入業者、医療安全管理者  
対象者 新人看護師、臨床検査技師、研修医 参加人数 80名  
内容 採血における注意事項について、模擬腕を用いた実技による採血技術の習得。

### 帰局員及び中途採用者研修会

開催日 平成19年5月18日  
テーマ 安全管理体制の指針及び電子カルテの基本操作について  
講師 堂前 正秀 (医療安全管理課長)、  
対象者 医師、看護師、医療技術者他中途採用者及び出向からの帰局者 出席者 15名  
内容 電子カルテの操作方法、及び医療安全管理体制の指針の解説

### 帰局員及び中途採用者研修会

開催日 平成19年11月29日  
テーマ 安全管理体制の指針と医療事故の防止体制について  
講師 堂前 正秀 (医療安全管理課長)、  
対象者 医師、看護師、医療技術者他中途採用者及び出向からの帰局者 出席者 40名  
内容 安全管理体制の指針の概略の説明とインフォームドコンセントの意味と成立要件及び医療紛争の予防について。

### 研修医・看護師対象の研修会

開催日 平成19年9月21日  
テーマ 麻薬・向精神薬の取り扱い  
講師 西尾浩次 薬剤部長  
対象者 研修医、看護師 出席者：研修医2名、看護師67名  
内容 麻薬及び向精神薬取締法に関する基本事項、払出し・受取り、記録・返却に関する取り扱い方法、事故が発生した場合の対応方法、更に麻薬取り扱い上の禁止事項について解説がなされた。

### 国公立大学附属病院リスクマネージャ研修報告

開催日 平成19年10月3日  
講師 医療安全管理者  
対象者 看護部安全委員会 看護師 28名  
内容 医療安全管理者が受けた研修の報告

### 研修医講習会

開催日 平成19年10月24日  
テーマ 医療事故防止のための安全対策について  
講師 医療安全管理者、医療安全対策小委員会委員長、  
対象者 研修医（1年目） 17名  
内容 安全管理体制の指針の説明と注射（インスリン量）の間違い防止についての説明。

### 医療機器の取扱いと深部静脈血栓予防セミナー

開催日 平成19年10月5日  
講師 医療機器納入業者  
対象者 医師、看護師、医療技術者、 出席者 50名  
内容 機器の取扱い方法の説明と機器を使用する際の血栓の予防について。

### 徐細動器、人工呼吸器操作取扱い研修会

開催日 平成19年8月3日、11月29日  
講師 医療機器納入業者、ME機器医療安全管理者  
対象者 医師、看護師、医療技術者、  
出席者 8月3日、124名、 11月29日 28名  
内容 徐細動器の機器概要と基本操作、人工呼吸器の概要、基本操作、各種アラーム機能、患者回路の組み立て等について説明

### 転倒・転落に関する安全講習会

開催日 平成20年2月6日  
講師 医療機器納入業者  
対象者 看護師、理学・作業療法士 出席者 92名  
内容 患者の身体的機能障害、認知的機能障害等のアセスメントの実施、患者のケアプランを立案、転倒・転落発生時の対応、転倒転落防止対策等について。

## ⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

### ・医療機関内における事故報告等の整備

(有)・無)

- ・医療事故が発生した場合には、それが重大なものであれば当事者から口頭で主治医・診療科長をとおして医療安全管理者に報告され、医療安全管理者が医療安全対策部長・診療部長である副院長、病院長へと報告する。その後速やかに主治医・当該部門リスクマネージャが、所定の医療事故報告書で事故の詳細を報告するシステムとなっている。
- ・事故調査委員会は、病院長を事故調査委員会委員長とし、副院長、医療安全管理者、看護部長、他13名で構成し、提出された事故報告書に基づき主治医・看護師長他関係者から事情聴取を行い、事故原因の調査・分析をし、改善策の立案・指導をとおして医療安全体制の確保を目指している。
- ・インシデントは、当事者から部門リスクマネージャをとし医療安全対策部（医療安全管理者）へ提出される。提出されたインシデントレポートは、事例によっては医療安全管理者が事実確認等の詳細な調査を行うと共に独自に分析・検討し現場へ改善策等の指導を行うとともに、分析結果を現場へ通知し、情報を共有して事故の発生防止に努める。

- ・診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を行い、改善策・対応策等を策定する。その改善策等が部署内で実行可能なものであれば速やかに実施すると共に、医療安全対策委員会に報告する。
- ・医療安全対策小委員会は、内科系・外科系・小児科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の15名で構成され、医療安全管理者及び事務局から提出された当該部署に特有の事例を含め、各部門に共通するような代表事例について事例検討を行う。事例検討では、インシデントに至る状況、要因、影響、改善等について、医師・看護師等それぞれの職種の目で見た意見を出し合い、小委員会としても徹底的に分析・検討し、医療事故防止対策を検討する。また、その結果は医療安全対策委員会に検討事例、改善策として報告・提案するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。
- ・医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャ（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）67名で構成され、インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果、改善策をそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。また、事例によっては委員会の指示で実地調査並びにフォローアップ監査を行うこととなっている。
- ・当該診療科が検討した改善策や医療事故調査委員会が指導した改善策が遵守されているか、医療安全管理者が現場で確認し、リスクマネージャに報告させると共に、院内ラウンドにおいても確認している。

#### ・その他の改善のための方策の主な内容

##### 安全対策委員会及び事故調査委員会で策定・指導した改善策

- ・熱傷防止について（知覚麻痺の患者が入浴の際に足に熱傷）  
浴槽には温度計を浮かべ、入浴する際には患者自ら確認できるようにした。
- ・放射線被曝防止について（小児に付き添った母親が放射線被曝）  
小児のX線撮影時のマニュアルを作った。
- ・900Cサーボ回路の組立て間違い防止について  
人工呼吸器本体の見やすいところに組立てマニュアルを備え付けた。  
夜間はME部で組立て用意しておく。日中要請があればME部が現場に行き組み立てる。
- ・注射の患者を間違い防止について  
患者名、薬剤名、用法を書いた個別の注射払い出し袋を確認する。注射薬の混注は薬剤師が混注する。
- ・禁忌薬剤の使用防止について  
アレルギー情報が目立つように、情報の入力を簡便なものに電子カルテシステムを改善した。
- ・薬剤（降圧剤）過剰投与防止について  
輸液ポンプの所定の場所に薬剤名を書いたテープを貼った。
- ・薬剤の投与方法の間違い防止について  
本来の用法と異なった特別な方法で服用する薬剤については、薬剤部は吸入薬だが内服するようという注意書きを薬袋に添付する。
- ・オーダ間違いによる薬剤の誤投与防止について  
薬剤名の頭にく皮・筋>といった形で、薬剤システムで注射箋に印字表示する。

- サチレーションフローベによる皮膚変化（熱傷）防止について  
上下肢の拇指に順次貼り替えることをマニュアル化した。
- 酸素の過剰投与防止について  
酸素流量計の浮子の位置にテープで印をつける。酸素流量計を新たにフロージェットプラスに順次更新していく。
- ミルクアレルギー乳児にミルクの授乳防止について  
ミルクの変更があった場合には栄養部はミルクを交換し、不要となったミルクは病棟から下げる。

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) ・ 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方</li> <li>2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本事項</li> <li>3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針</li> <li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本事項</li> <li>5. 院内感染発生時の対応に関する基本事項</li> <li>6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	(有) ・ 無
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染管理組織とシステムの構築</li> <li>2. 院内感染サーベイランス</li> <li>3. 感染に対するコンサルテーション</li> <li>4. 感染管理教育</li> <li>5. 職業感染防止</li> <li>6. 感染防止技術：マニュアル作成・改訂</li> <li>7. ファシリティ・マネジメント</li> </ol>	
③ 従業員に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全職員対象「新しい隔離予防策ガイドライン」 開催日時：2008年8月1日 講師：井口晶晴感染対策室副室長</li> <li>2. 新採用者対象全員「新入職員オリエンテーション」開催日時：2008年4月2日       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コメディカル対象：開催日時：2008年4月4日</li> <li>2) 研修医対象：開催日時：2008年4月8日</li> <li>3) 看護師対象：開催日時：2008年4月9日</li> </ol> </li> <li>3. 看護師2年目・准看護師対象：開催日時：2008年6月27日・7月4日</li> </ol>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ( (有) ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中央臨床検査部→感染対策室       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) MRSA検出は毎日報告 (土・日・祝日を除く)</li> <li>2) VRE・VRSA・MDRPは速報</li> <li>3) PRSP・ESBLsは1回/週</li> </ol> </li> <li>2. 臨床→感染対策室 (Smart Risk Manager・電話報告)       <ul style="list-style-type: none"> <li>★ICNは感染対策用の携帯電話を持ち24時間対応とした</li> <li>★速報は [中央臨床検査部→管理課→感染対策室] → [中央臨床検査部→感染対策室→管理課] に変更した</li> </ul> </li> </ol>	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>平成19年7月25日 演題：「医薬品による副作用等が発生した場合の対応」、講師：宮東剛文（薬剤部）により、“医薬品による副作用発生時の報告手順の説明等”を全職員対象に行った。</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 (○・無)</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用・購入に関する事項          医薬品の管理に関する事項          患者の持参薬歴情報の収集方法、処方箋の記載方法          患者に対する与薬や服薬指導に関する事項          医薬品の安全使用に係る情報の取り扱いに関する事項          他施設（病院、薬局など）との連携に関する事項</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 (○・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>薬剤部内での安全対策に関する会議を月1回開催し、問題点、解決方法を検討し、薬剤部員へ周知後実施。手順書の変更が必要な場合は、この会議で手順書の変更の承認を得る。</p>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○ ・ 無
② 従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工心肺及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー発生装置等の装置、機器類について年2回の研修を実施。研修内容としては主に、安全性、有効性、基本的な操作方法、保守管理、トラブル時の対応そして法令等の遵守事項等について実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 ( ○ ・ 無 )</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>当院では機器管理部門であるME部が機器の保守管理を行っており、管理機器保守点検計画書（人工心肺及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動装置、閉鎖式保育器、診療用高エネルギー発生装置を含む）の年間計画に従って実施。基本的にメーカー提供の機器マニュアル、及びメーカー指示（点検内容、点検期間、頻度）に従いチェックシートを作成し臨床工学技士が保守管理（通常点検、定期点検）を行っている。また人工呼吸器等、主要機器のオーバーホール等はメーカーに委託して行っている。</p> <p>（注：診療用高エネルギー発生装置は中央放射線部管理）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 ( ○ ・ 無 )</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>主としてメーカー、臨床工学技士会及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービス、加えて各種機器納入事業者等より関連情報を入手。院内関連部門へ通達、メール等により周知、また必要時にはメーカー・事業者と共に臨床工学技士（ME部）が協力し当該部門への直接対応等を行っている。</p>	